

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171600184		
法人名	医療法人 竜門堂		
事業所名	竜門堂グループホーム ことぶき荘		
所在地	佐賀県武雄市山内町大字大野6360番地6		
自己評価作成日	平成22年2月25日	評価結果市町村受理日	平成22年9月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人佐賀県社会福祉会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成22年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

結婚式場だった所を改修したホームで1ユニットにしては、充分過ぎる広さである。段差や階段があるがそれが「生活リハビリ」に繋がり、よい結果が得られている。毎日を元気で過ごして頂くためにラジオ体操や毎食前の嚥下体操も行っている。自分らしくゆっくり過ごして頂くよう黒子のケアに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広いリビングを活かして、利用者全員の顔がみえる机の配置をされ、利用者同士の安心感につながる工夫をされている。段差や階段を利用して、日常生活の中で自然とリハビリが行われている。職員参加のミーティングや運営推進会議で活発な意見交換がなされており、よりよいホーム作りに結びついている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分らしく暮らして頂くために、誰にでも分かりやすい言葉の理念を作り、毎朝の申し送り時に職員一同で唱和している。ホーム内の要所に掲示して、理念の実践に取り組んでいる。	法人の経営理念を基に、職員で話し合い、グループホーム独自のモットーをつくられている。毎朝の申し送り時に唱和され、理念の実践に取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の行事に参加したり、日々の散歩の中で挨拶を交わしたりしている。近所の方から花や野菜を頂くこともある。また「ことぶき荘だより」を配布し、交流の糸口になればと努めている。	地区のおどりの会や文化祭を見学に行かれたり、散歩する時に「ことぶき荘だより」を配布され、地域の人々にグループホームを理解していただけるよう努力されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人とまではいかないが、認知症の方のご家族から悩みや対応に関して尋ねられた時に、相談にのったりアドバイスをすることはある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議へは、地域、ご家族、行政、法人より参加が得られ、ホームの現状を理解して頂く機会と捉えている。意見の出しやすい雰囲気作りを心掛け、出された意見を参考にし、サービスの質の向上に繋げている。	家族の意見でスプリンクラーの設置が決まったりと、参加者から積極的に意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者の方とは、連絡や相談など電話をかけた後、窓口まで出向いたりしている。担当者のかたの訪問も定期的により協力関係が築けている。	市役所と支所との両方の担当者とは、相談を重ねることで協力関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の悪影響を職員全員が認識し、全員で鍵をかけないケアに取り組んでいる。また、拘束について日々話し合いケアの工夫をし、玄関、荘の出入り口、居室など施錠せずいつでも出られるよう取り組み、身体拘束をしないケアが出来ている。	身体拘束廃止マニュアルや職員の自己チェックポイントを日々確認し、研修に参加することで身体拘束をしないケアをされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で暴力だけでなく、言葉による暴力もあることを学んだ。荘では、入居者様の身体状況に目を配り、職員の口調にも全員で注意を払い、感じのよい話し方ができるように日々取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度については研修を通して学んでいる。現在までに必要な方と関わったことがないが、適切に対応出来るよう今後も学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては契約書を元に利用者、御家族へ管理者が説明している。説明後疑問などが無いとお尋ねしている。後日尋ねられることもあり、その都度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族に要望や意見がないかこちらから聞くようにし、玄関には意見箱を設けそちらの利用も勧めている。入居者様が外部へ出される機会としては、介護相談員の来荘時に話されるようにしている。	家族の面会時に声かけをおこない、直接言いにくい場合は意見箱の利用も勧められている。日頃の様子を伝えながら、話しやすいよう工夫されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のミーティング時に職員の意見を聞く機会を設けている。それ以外にも、いつでも言ってもらい、運営者へは法人の事務長を通したり、管理者が直接言って意見を反映している。	朝の申し送り・月1回のミーティング・カンファレンス時に、職員の意見や提案を聞く機会を設けられ、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	タイムカードの確認、職員の研修レポートなど目を通され、日頃の勤務態度もよく見られていると思う。それによって職員の異動、昇給、賞与に繋げてあると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人には教育委員会があり、勉強会や研修の計画がたてられており参加している。県外への研修には、法人より研修費用を全額負担してもらって勉強する機会もある。資格取得や個人の研修希望には休みを組み配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に入っており、研修や勉強会の機会がある。近隣のグループホームからの見学、入居者様と関わりのあったケアマネージャーなどの訪問もあり、情報の交換をし、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前にグループホームに見学に来て頂いたり、こちらから出向いてお話しし、不安なこと困っていること要望などを聞くようにしている。入居される前に馴染みの関係を作り、安心していただくように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前にグループホームに見学に来て頂き、ご家族と話す機会を設けている。家庭での介護の大変さ、入居に際しての不安、要望など真摯に耳を傾け関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すぐに入居ということではなく、家庭にいながらのサービスがあることを説明している。デイサービス、ショートステイなどを利用され、家庭での介護が困難になられたときに入居を受け付けるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることを奪わないケアを心掛け、励まし、見守り、出来る喜びを共有している。料理、生活の知恵、諺など教えて頂き、入居者様とよい関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に荘での生活ぶりをお話し、現在の状況を理解して頂くようにしている。不安、不穏時にご家族へ電話して話して頂いたり、外出をお願いするなど協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の思いを理解し、ご家族の協力を得て関係が途切れないように努めている。	馴染みの人への電話や家族との繋がり、馴染みの美容室、近所の理容室の利用等、関係が途切れないよう支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲のよい方、気が合う方、気の合わない方などの入居者様の関係を把握し、同テーブルにするなどの配慮をしている。一人で孤立されないよう、その時々で位置を変えたり、職員が間に入り工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された御家族から電話があったり、訪問されたりとよい関係が築けている。法人の病院や近くの病院に入院されたときには、面会に行くなどの関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の会話や、職員と交わす会話の中で、日頃思われていることや希望などがわかり尊重している。何事も自分だったら、自分の親だったらと置き換えて入居者様の意向の把握に努めている。	日頃交わす会話の中で、本人の意向の把握に努められている。困難な場合は、利用者の立場に自分を置き換えて、本人本位に検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される時は本人やご家族、また他のサービスを利用されている場合は、そこからの情報などから生活歴、暮らし方などの把握に努めている。入居後は日々のお話の中からも把握し参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居される際これまでの暮らし方や過ごし方をお聞きし参考にはするが、実際には入居され荘での生活ぶりから、その方の心身状態、残された力の把握に努めるようにしている。先入観を持たないよう職員全員で勤めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画を作成する前に、ご本人ご家族、主治医などの意見を聞き、希望や意見を取り入れた介護計画を作成している。ご家族の意向として、計画表の第1表にも書いて頂いている。	入居者・家族・医師の意向を踏まえ、チェック表を作り、定期的に介護計画の評価・見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録、一日の生活の様子気づき等介護日誌に記録している。ケアに関しては個人のケア記録簿を作成して記録している。全職員が情報を共有し計画の実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様、ご家族の要望を最優先しその時々合わせた柔軟な対応に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町主催の文化祭、踊りの会見学などことぶき荘から出かけていく支援を楽しんでもらっている。今年度は災害時の対応の仕方について、入居者様と共に消防署より避難訓練の指導を受けることができた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様は地域の人だったり、大野病院を退院しての入居で、かかりつけ医は法人の医者であり、適切な医療を受けられている、専門外の耳鼻科、歯科などはご本人のかかりつけ医を、受診されるよう支援している。	系列の病院がかかりつけ医となられているが、専門診療等は入居者の希望に合わせて、受診の支援をされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤ながら看護師が勤務しているので、入居者様の状態を把握してもらい異常時は素早く対応でき、いつでも気付きや入居者様の様子を報告、相談できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された場合は、職員がお見舞いに行き病院関係者との情報の交換に努めている。安心して療養されるようサポートし、退院に向けての身体の状況などの情報をもらって連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の法人の指針を説明しているが、ご本人の気持ちを最優先する取り組みをしている。ご家族、医師とよく話し合い、医師の指導の元職員一体となり支援している。	方針は家族へ入居の時点で説明されている。ホームの方針としては、重度化した場合はかかりつけ医にお願いしている。家族の希望や医師の判断、職員と情報を共有してホームでの看取りもされたことはある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練とまでは言えないが、応急手当や初期対応のマニュアルを折に触れ話合っている。看護師より指導を受け、ほとんどの職員が急変時や応急手当ができています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は入居者様も参加してもらっている。地域の方へはことぶき荘便りを配り、現在の状況を知ってもらい、なにかの時はお世話になりますと声をかけている。	地域には散歩中に便りを配布し、協力体制を築かれている。避難訓練は消防署の立会いの下、昼間を想定して、入居者・職員全員でされているが、夜間を想定した訓練は行われていない。	夜勤は一人であるため、夜間を想定しての、避難訓練を行われることが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	辻褃の合わない言動や行動に対し職員が受容し合わせることで、一人一人に応じたさりげない対応ができています。人生の先輩であるとの意識を持ち、言葉使いはもちろん、何をすることもご本人の意志を尊重した対応に努めています。	人生の先輩であるとの意識を持ち、声かけをはじめ行動に対して、一人ひとりを受容をされ否定しない対応をされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が手を出しすぎないケアを心掛け、何事にもご本人の気持ちを伺う姿勢で接している。気持ちを表現して頂くよう傍に寄り添い、言葉に表せない方にも気持ちを汲み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側にある程度の決まり事はあるが、入居者様に対しては家だったらとの意識を持ち意志を尊重している。何事も入居者様優先を実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分できちんと出来る方には褒め、出来ない方には一緒に服を選んだり、季節に合わない服装をされている時は促して着替えて頂いている。訪問美容や、行きつけの美容室に行かれるなど、それぞれに対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の食べたいものを聞いたり、旬の食材を使い季節感のある献立をたてるようにしている。力に応じ野菜刻み、盛りつけ、お盆やテーブル拭きなどをして頂いている。職員も同じテーブルで会話を楽しみながら食事をしている。	好みのメニューを取り入れたり、食事前には、献立の内容を説明されている。入居者の力を活かし、盛り付け・食器の片付け・買い物等を職員と共に行なわれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉、魚、卵、豆腐、野菜を使ったバランスのよい献立にし、その方に合わせて一口サイズに切ったり、量も一人一人に応じたつぎ分けをしている。食事前には嚥下体操を行い、むせや誤嚥がないようにしている。水分の摂取にも気を配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促し、自分で出来る方でも磨き残しがないか職員で確認し仕上げ磨きをしている。義歯の方は職員で磨きその後うがいもされている。歯ブラシコップなど天日干しをし雑菌の繁殖を防いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、排泄パターンを把握してトイレ誘導している。その方応じた尿取りパットやトレーニングパンツを使いおむつを使用しないよう支援している。	おむつを使用しないように、排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、トイレ誘導が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘のリスクを職員全員が理解している。排便の状況を把握し、野菜をふんだんに摂れる献立にし、水分も多めに摂って頂くようお茶や食事時に促している。毎朝のラジオ体操、腹部マッサージで自然排便を目指している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	早めに入りたい人、ゆっくり入りたい人などそれぞれの好みに合わせた支援を行っている。入浴時間も体調に合わせて声かけをしながら行っている。	入浴日を決められているが、希望があれば柔軟に対応されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、活動して頂き夜間は眠られよう支援しているが、眠れないときは無理に休ませず、職員とお話し眠くなれるのをまつようにしている、基本は寝たいときに寝て頂くを職員一同が実践している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人の介護日誌に綴じ、職員全員が用法用量が分かるようにしている。また、薬剤ノートに処方されている薬を記録し症状の把握に努めている。誤薬や与薬忘れがないよう服薬介助後二人の職員で間違いがないか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話の中から得意なこと趣味を知り、カラオケ、習字、絵、ゲームなどそれぞれ楽しまれている。年間の行事の花見、流鏝馬なども楽しみに待たれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	荘周辺の散歩や病院の売店へおやつや買い出し、また、入院されている方のお見舞いなど、入居者の希望に沿っている。花見、踊りの会など希望されることもあり職員で支援している。踊りの会は地域の方が席を取ってくださるなどの支援が得られている。	散歩や病院への通院、玄関前でのひなたぼっこ等の近場から、花見や流鏝馬見学等遠出の希望も把握し、地域の人々の協力を得ながら外出支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお小遣いを持っている方は一人だがきちんと管理ができなくなっている。紙に包んでゴミと間違えることもあり、必ず財布に入れておくように言葉をかけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で電話の番号を押せる方はいらっしゃらないが、希望されれば職員が電話をかけ話して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般の家庭と同じ電化製品や家具を使用し、家庭が感じられるよう配慮している。デイルームには季節の花や貼り絵を飾り、食事時には季節の歌を唄って季節を感じてもらうようにしている。日射しはカーテンで工夫し、テレビの音量は職員でさりげなく調節している。	一般家庭と同じ家具を使用されている。デイルームには、季節を感じるができるよう、貼り絵や書道のテーマも季節に合わせて行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デイルームには三人掛用ソファ、安楽椅子、家具調ソファなどを配置し、気の合う人同士座られたり、また一人の時間を過ごしたりと思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持参されている方は一部である。入居時馴染みの物を持ってきて頂くようお願いするが、衣装ケースなどを持って来られ仮の住まいの感は否めない。	馴染みのある家具を利用されている方は一部ではあるが、引き続き家族へ、馴染みの物を利用することのメリットについて話をされ協力を求められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室などの表示はせず言葉かけで自然に覚えて頂くようにしている。居室の表札もご自身で書いて頂いている。荘内の共有部分と自分の部屋との区別がきちんとできる方もいらっしゃる。		